

イオアニナ県イオアニナ (IOANNINA) 市

2012年6月

在ギリシャ日本国大使館

この度、ギリシャ共和国イオアニナ市のフィリップス・フィリオス市長から、日本の地方自治体と姉妹都市提携を希望する旨の要望がありました。以下、イオアニナ市の概要を紹介いたしますので、ご関心のある自治体は末尾の問い合わせ先までご連絡ください。



<概況>

ギリシャ北西部のイピロス地方、イオアニナ県の首都。ヨアニナ、ヤネナとも呼ばれる。アテネから311キロメートル、イオアニナ湖として知られているパンヴォティダ湖の西岸、海拔500メートルに位置する面積47,440㎡、人口12万人の都市。イピロス地方のビジネス・観光の拠点として空港を有し、アテネーイオアニナ間は毎日2便運航しており、250軒以上のホテルと約2万人の学生が学ぶ国立イオアニナ大学がある。カロロス・パプリアス・現ギリシャ大統領の出身地でもある。

山と湖に囲まれた緑豊かな美しい自然と多くの遺跡や古城、情緒ある伝統的な町並みで有名である。一年を通じて、冬はスキー、夏はラフティング、カヌー、水上スキーやサイクリング、トレッキングなどのアウトドアスポーツが楽しめるリゾート地として限らない魅力を秘めている。イオアニナ市近隣の山間部に点在するザゴリ、コニツァ、メツォヴォといった風光明媚な村々も観光スポットとして近年注目を浴びている。

<気候>

地中海性気候。最暖月は7・8月、平均気温30.9度。最寒月は1月、平均気温0.2度。最多雨月は12月、174.9mm。

<市章>

イオアニナ市章は、同地域が誇るドドニの古代劇場とビザンティン皇帝・ユスティニアヌス帝が描かれている。



<歴史>

イオアニナ市は6世紀、ビザンティン帝国のユスティニアヌス皇帝によって建設された。市名「イオアニナ」は510年頃、イオアニナ城の敷地に建てられた洗礼者ヨハネ修道院に由来している。聖ヨハネ(ギリシャ語でヨハネはイオアニスと発音)はイオアニナ市の守護聖人でもある。

6世紀末～7世紀初期、イピロス地方一帯がスラブ民族の侵略を受け、この間のイオアニナ市の歴史は残存していないが、数十年間同民族の統治下にあったとみられている。

1204年、イオアニナはミハイル1世コムノスが建国したイピロス専制侯国の重要都市となり経済・文化面で発展を遂げ、1358年から首都として君臨した。

1430年、オスマントルコ帝国の占領下に入るが、社会的、経済的、宗教的特権を認められて商業・文化が発展し、特にアリ・パシャ統治時代(1789年～1821年)には、他の欧州先進国を見習った教育や知識の普及に重点が置かれ、イピロス地方の要として大きな繁栄期を迎えた。

1913年、バルカン戦争の終結でギリシャに編入される。

1921年～1922年、希土戦争後、イオアニナ在住のトルコ人は退去し、小アジアのギリシャ人住民が移住。

第二次世界大戦では、イオアニナをはじめイピロス地方全域がイタリア及びドイツの攻撃に苦しみ、多くの村が壊滅した。

1942年～1949年、ギリシャ内戦で街はさらに大きな打撃を受け、経済危機に陥り、多数の住民がドイツ、特にアメリカに移住した。

<イオアニナ市内の観光名所>

ニサキ(小島)

パンヴォティダ湖北部に浮かぶ小島。イオアニナ市を彩る最も美しい観光スポットである。島と街を結ぶ小型モーターボートが頻りに往来しており片道約10分である。島には5つの古い修道院が残っており、中でもフィランソロピオン修道院とパンデレイモン修道院は有名である。後者はアリ・パシャが殺害された(1822年)場所として、現在、博物館となっている。島には銀細工や工芸品を扱った土産物店やタヴェルナが多く立ち並び、島の名物、カエルの足の料理が有名である。



イオアニナ城

528年、ビザンティン帝国の要塞計画の一環としてユスティニアヌス帝によって建てられた。現存するビザンティン期最古の城である。アリ・パシャ時代にはギリシャー大きな統治司令本部として重要な役割を果たすと共にアリ・パシャの宮殿でもあった。城内には、ビザンティン博物館をはじめ、イオアニナ市立歴史博物館、アリ・パシャの2階建て軍用建物、浴場跡、シナゴークなど様々な建物が点在する。



モスク

市内にはオスマントルコ時代の影響を色濃く残す3つのモスクが現存する：

アスラン・パシャ・モスク(1618年)

イオアニナ城敷地内、聖ヨハネ教会跡に建てられた。1933年より市立歴史博物館として使われており、宝飾品や民族衣装、オスマン帝国時代の武器や刀、文書等が展示されている。ここからの湖とニサキの眺めは絶景である。



フェティヒ・モスク(1430年、1790年再建設)

イオアニナ城敷地内、聖ミハエル教会跡に建てられた元アリ・パシャの宮殿。モスクの隣には、アリ・パシャと妻エミネの墓地がある。ここにはアリ・パシャの胴体のみが納められており頭部は子孫と同じイスタンブールの墓に眠る。同モスク及び墓地は一般公開されていない。



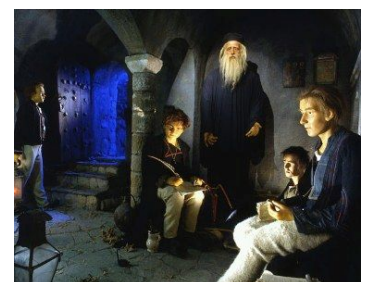
カンリ・ツェズメ・モスク(17世紀中期)

市内(カルチアニ地区)の市場の中にある。



パヴロス・ヴレリス歴史博物館

イオアニナ市より12km離れたビザニ地区にあるギリシャ歴史博物館。イオアニナ市出身の芸術家、パヴロス・ヴレリス(1923-2010年)氏が手がけた蠟人形の作品が展示されている。



主に、オスマントルコ時代及びギリシャ独立戦争で活躍した人物や歴史的イベントがモチーフとなっている。

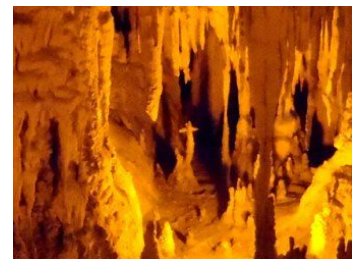
<イオアニナ市近郊の主な観光名所>



ペラマ鍾乳洞

イオアニナ市北4Kmのペラマ村にある150万年前にできた鍾乳洞。全長約1500m、平均気温17度。

1940年、村の住民に発見され、イタリア軍からの爆撃の際、防空壕として使われた。1956年、専門家により初めて本格的な調査が行われた。観光客向けに鍾乳洞内のガイドツアーが行われている。



ドドニ古代劇場

イオアニナ市から南西22km、トマロス山麓に広がる古代の聖域であったドドニの遺跡群のひとつで、紀元前3世紀に造られた。収容人数1万8千人、現存する古代ギリシャ劇場の中でも保存状態が良く、イピロス地方が誇る貴重な遺跡。



ザゴリ(ザゴロホリア)

イオアニナ市北東部の山岳地帯に広がる46の村落郡。豊かな自然と伝統に包まれた風光明媚な村々は人気の観光スポットである。総面積1,000平方メートル、東、西、中部の3エリアに分けられ、エリアごとに異なる独特の景観は一見に値する。

<郷土グルメ>

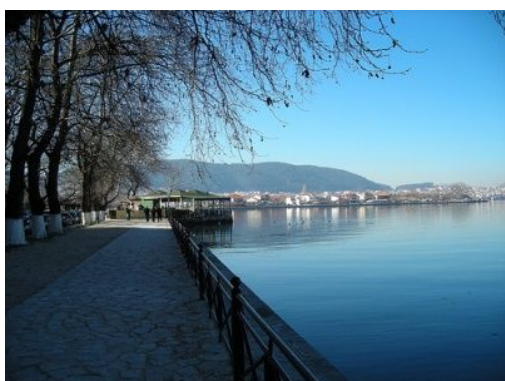
湖や川が多く、水が豊富な土地柄から鰻、カエルの足、マス料理が有名である。

また、シロップがたっぷりかかった生菓子は、「ヤニオティコ・シロピアスト(イオアニナ産シロップ菓子)」として有名である。

チーズ(特にイオアニナ市東部の街、メツォヴォ産のチーズ)や手作りのパスタなども種類が豊富である。



全国区で活躍する主な地元メーカーとして、イオアニナ市北西の村、ジツツアのグリナヴォス・ワイナリーのワイン「ジツツア」、ザゴリ産ミネラルウォーター「ザゴリ」、乳製品「ドドニ」などがある。



イオアニナ・パンヴォティダ湖



ザゴリ・ヴィコス溪谷



イオアニナ・プラカ橋



ザゴリ・パピゴ村

【お問い合わせ先】

○外務省地方連携推進室

電話 03-5501-8491

メール gaimu-renkei@mofa.go.jp

○在ギリシャ日本国大使館広報文化部

電話 210 670 9901/2

FAX 210 670 9981

メール cultural@embjp.ondsl.gr

なお、イオアニナ市以外の都市でも日本の自治体と姉妹都市提携を希望している都市があります。詳しくは次の姉妹都市募集情報

http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/local/action/sf_city.html#collection

をご覧ください。